

- 2,3面 第16回 造園技術フォーラム 川崎市で開催
【関東・甲信総支部】都市樹木を脅かす外来カミキリムシ
【北陸総支部】新石川県立図書館周辺植栽工事
【九州総支部】大分城址公園大手門前クロマツ移植 経緯と顛末
【東北総支部】リノベーションで蘇る「東の杜」
【日本造園学会】造園技術の継承と展望
【講評】東京大学大学院農学生命科学研究科 教授 大黒 俊哉
4面 【ふるさと自慢】鎌倉時代からの歴史と伝統を繋ぐ
鹿児島支部 横瀬 博文 (株横瀬造園土木)
【緑滴】空を見上げて 島根県支部 持田 ミカル (有みどり建設)



2025年 新年造園人の集い

620名が参加し賑わう

2025年新年造園人の集いで乾杯のあいさつを行う和田新也日造協会長

2025年新年造園人の集いは1月7日(火)、東京都港区高輪の品川プリンスホテル「プリンスホール」で開催され、昨年を上回る約620名が参加して盛大に行われた。

集いは冒頭、世話人を代表し、高梨雅明(一社)日本公園緑地協会会長は、「今年はずっと前から共有していた考え方で、私たちは蓄えてきた力を発揮し、より高い水準を目指すべきだ。今年100周年となる造園学会は造園業界のプラットフォームとして、社会に貢献したい。記念大会は5月16日から3日間、東京大学で実施し、その後、各支部で記念大会、12月の東京農業大学での関東支部大会でクロージングする。皆様方のご参加をお願いしたい」と述べた。

次いで、柳井重人(公社)日本造園学会会長は、「ネイチャーポジティブやグリーンインフラなどの考え方が普及しているが、造園界ではずっと前から共有していた考え方で、私たちは蓄えてきた力を発揮し、より高い水準を目指すべきだ。今年100周年となる造園学会は造園業界のプラットフォームとして、社会に貢献したい。記念大会は5月16日から3日間、東京大学で実施し、その後、各支部で記念大会、12月の東京農業大学での関東支部大会でクロージングする。皆様方のご参加をお願いしたい」と述べた。

官界からは、片山壮二国土交通省都市局公園緑地・景観課長が「都市緑地法の改正で、法律に基づき都道府県が緑に関する広域計画を策定でき、民間事業者等による優良な緑地確保の計画を国土交通大臣が評価認定する優良緑地確保計画認定制度で官民連携で緑を確保していく」。また、植田明浩環境省自然環境局長が「生



高梨雅明会長 柳井重人会長 片山壮二課長



植田明浩局長 和田新也会長 金清典広会長

物多様性増進法が成立し、環境と国交、農水で協力して進めていく。ネイチャーポジティブに向け30by30を自然環境のみならず都市の自然にも拡大、自然共生サイトを法律に基づき広げていく」と、昨年のトピックと今後の動向を語った。

その後、「2025年今年期待の造園人」受賞者7名を紹介、ご祝儀とバッチが世話人を代表して高梨雅明会長から受賞者に手渡され、受賞者から抱負が語られた。

乾杯は、各界の代表12名による鏡開きに続き、和田新也日造協会長が産業界を代表して「造園界の追い風となる諸制度ができた。我われはこれを社会に提供していく必要がある。また2027年の国際園芸博覧会に向け、緑が一過性のものではなく、社会に根付くよう活動していかなければならない」と述べ、参加者で「頑張ろう」を唱和、祝宴となった。

集いは途中、各団体の代表があいさつ、最後に金清典広(一社)ランドスケープコンサルタンツ協会会長が閉会のことばを述べ、閉会した。

植栽基盤診断士 1,800名を超える

植物が良好に育つ土壌環境を整える専門家「植栽基盤診断士」は、日造協が2003年に資格制度を創設し22年目。今年度の認定試験は、「学科試験」を9月15日に全国4会場で実施、学科試験合格者はその後「実地試験」を11月に福岡、大阪、愛知、東京で受験。12月に「植栽基盤診断士認定委員会(委員長：高橋輝昌千葉大学教授)」より合格者が

発表された。結果は以下の通り。

実技試験合格者は、登録認定手続きで「植栽基盤診断士」と称することができ、資格者の累計は1,846名となった。

「植栽基盤診断士」は、明確なデータと合理的・経済的な改良提案などで、良好な植栽基盤の確保に役立ち、発注要件に取り入れられるなど活用が広がっており、今後も活躍が期待される。

合格者一覧 新たな診断士55名に

- 2024年度植栽基盤診断士の合格者は次の通り(受験番号順)。
【福島県】根本和良(根本樹園)
【茨城県】橋本拓也(株橋本農園)
【埼玉県】中島孝之(株日本グリーン企画)、井上文乃(株前島植物園)、永沼佳孝(株花

- 園グリーンサービス)、小林樹生(株山口造園)、小野寺翔(株宝亀園)、京極大輝(株東農園)、山田京介(株八雲造園)、高橋将人(株新井緑地建設)
【千葉県】内藤智貴(京葉ガーデン株)、廣瀬竜一(株廣瀬造園)

樹林

(一社)日本造園建設業協会理事
ミドリ環境建設(株)取締役社長 相良 政博



あらためて「緑」

本部にもご協賛いただきました2024一語一絵「第19回みどりの文」の入選作品を昨年9月に発表させていただきました。昨年は、848通(海外も含む)ものご応募があり、さまざまなかみどりとの出会いがありました。

特に今回は、都会と地方での「緑のあり方」について興味を持ちました。10代から90代までの応募者からは、地方にあっては、自然の緑の芽吹きに生きる強さを教えられた、というお手紙が多く見受けられました。

また、都会にあっては、テレワークで垣間見た観葉植物やお花屋さんのお花、公園の緑といったピンポイント的な緑に癒されているといった内容が多かったように思います。

ここで、都会の緑については、現在、明治神宮外苑の樹木伐採が話題になっていますが、「神宮外苑の樹木3m以上の本数を、当初の予定より124本の伐採をとりやめ、高木は、再開発前の1,904本から2,034本に増やす」という新聞記事を目にしました。

周囲では、環境破壊だという声が上がっていますが、大木の管理やイチョウ並木の根の保護範囲を考えると、人為的に手を入れざるを得ない状況にもなっていると思われます。

この問題は、環境破壊というひとくくりではなく、長い目でみると、さらに豊かな都会の緑を作るための議論であると私は考えています。

確かに、暮らしの緑、たとえば生活する場所に緑が多いほど、気持ちは安定するという調査結果があります。

これは、生活環境に公園があって植物に触れる機会が多い2~5歳の子どもは、地域や親の職業とは関係なく、攻撃的になることが少なかったといえます。

豊かな緑に囲まれている地方にあっては、幼い頃から緑との関わり合いが密で、緑の中での遊び、庭や畑仕事の手伝いなどから、知らず知らずの内に緑が暮らしの中に浸透し、暮らしの一部になっているのでしょうか。都会のように癒しの緑を求めてという動きはあまりないのかも知れません。

また、最近、街路樹の倒木が全国的に問題となっておりますが、街路樹が全国的に植栽されるようになったのは、あのバブル期だと聞き及んでおります。

あれから約50年が経過し、管理の薄さが、現在の倒木の危機を招いていると考えますが、今後、行政側と業界と密な連携が不可欠であります。

また、全国的に、行政側に樹木や修景の専門員がいないことも大きな課題であると思います。

しかし、自然な緑や都会の公園であっても、そこに緑があれば、心が落ち着き、安らぎます。

人の脳は、緊張した状態ではβ波が増えますが、緑を見た時は、リラックスのα波が増えることが知られており、また、緑色の波長は、視覚的、心理的にも最も穏やかとされています。

緑は、季節によって濃淡深淺な色合いや風情があるものです。暮らしを彩る「癒しの緑」に、あらためての気づきと味わいです。

- 【東京都】佐藤悠夏(株富士植木)、市川明子(第一造園株)、四宮賢(東洋グリーン産業株)、河合菜採(マメシバ造園)、岡崎広大(住友林業緑化株)、荒川幸子(株石勝エクステリア)、吉澤潤也(かたばみ興業株)、景山陽子(大田区役所)、馬場桂一(東洋グリーン産業株)、大和久航平(株昭和造園)、明石健司(天龍造園建設株)、加藤岳大(株富士植木)、萩原和佳(住友林業緑化株)、青木正行(日本植生株東京営業所)
【神奈川県】高野絵理奈(株湘南グリーンサービス)
【長野県】小林大祐(株信濃美植)
【富山県】加藤亜紀(株拓コーポレーション)
【静岡県】橋田啓介(天龍造園建設株)
【愛知県】松尾建吾(日本工営都市空間株)、原田一輝(大島造園土木株)、和田直樹(大島造園土木株)、加藤和恵(株朝日興産)、長谷川大智(大島造園土木株)、中尾弘味(大

- 島造園土木株)
【滋賀県】遠藤健彦(西武造園株(膳所浄水場))
【京都府】大西祥生(石豊造園土木株)
【大阪府】石伏利明(株奈須造園)、櫻井善仁(株KANSOテクノス)
【兵庫県】島麻美(株兵庫之荘グリーン)
【和歌山県】三葛洋平(株松原園)
【広島県】空久保耕児(株京栄建設)
【鳥取県】野村歩(環境緑地株)
【山口県】多々良利気(株多々良造園)
【福岡県】山崎祐紀(株九州造園)、益雪彩海(木下緑化建設株)、上村康太(木下緑化建設株)、嶋田新奈(九州グラウンド株)
【佐賀県】山下公一(株椿原造園)、池田祐章(株江里口造園)、山川拓郎(株飛鳥緑化建設)
【長崎県】松本翔太(景照園株)
【熊本県】田尻一誠(熊本市役所)、白濱敬介(伊勢造園建設株)

建設業年度末労働災害防止強調月間

本月間：令和7年3月1日～31日

建設業年度末労働災害防止強調月間は、完工時期を迎える工事が増加し、さまざまな作業が輻輳するこの年度末に注意を促し、無事故・無災害で新年度を迎えていただくことを目的に、建

設業労働災害防止協会の主催、厚生労働省、国土交通省の後援で毎年行われ、関係企業への周知が図られています。

詳細は建設業労働災害防止協会のホームページをご覧ください。

# 第16回 造園技術フォーラム 川崎市で開催

日造協は、「第16回造園技術フォーラム」を全国都市緑化かわさきフェアに合わせ、2024年11月8日に神奈川県川崎市川崎区のカルッツかわさきで開催しました。

造園技術フォーラムは、会員企業や造園学会が実施してきた造園技術に関わる調査研究の成果を報告し、情報を共有することで、会員企業のみならず、造園業界の技術力の向上を目指すために実施しており、フォーラム後は、造園技術に関わる関係者の意見交換のために交流会も開催しました。本号では発表の概要を紹介します。

日造協会員の方は、会員専用サイトの「グループウェア」「共有フォルダ」「100[技術・情報資料]」「02-(本部)造園技術フォーラム」で、当日の資料をご覧いただけます。



フォーラムの冒頭あいさつする和田新也会長

当日は午後1時より、造園技術フォーラム部会の河野友和氏を司会に、和田新也会長が開会にあたり「全国各地から多

くの方々にお集まりいただきありがとうございます。会場に集まり開催できることを嬉しく思います。また、本日は日本

造園学会から発表者として水庭先生、講師として大黒先生にご参加いただき、心から御礼申し上げます。

造園の施工分野では、工事内容の多様化や施工技術の進歩に対応するため、日頃から新たな知識、技術の習得に力を注ぐことがますます重要になってきています。このような観点から、日造協では都市緑化フェアの開催に合わせて開催しており、今回で16回目となりました。聴講される皆様には、本日発表されるさまざまな情報を今後の業務の中で緑豊かな環境の保全や創造に生かし、広く役立てていただければ幸いです。

また、フォーラム終了後に交流会がございます。人と人の交流の輪が広がり、情報の一層の共有化も進む場となることを期待しています。皆様にとって本日が実り大きな日となることを心から祈念いたします」とあいさつ。

地元東北総支部をはじめ4総支部、日本造園学会からの発表と講演をいただきました(別掲)。

次いで、小酒井淑乃川崎市建設緑政局緑化フェア推進室担当部長から、かわさきフェアについてのご紹介、日造協岐阜県支部長代理

で坂井丈浩氏から、ぎふフェアについてのご紹介をいただきました。その後、かわさきフェアで受賞作品を実際に坂井支部長代理

作庭・展示している全国



プラン賞作庭中。手前は受賞者の櫻井さん

造園デザインコンクールのみどりのプラン賞についての紹介を日造協事業委員長の正本大氏が行い、技術委員長の伊藤幸男氏のあいさつで午後4時半に閉会。

会場では引続き、会場ロビーで展示紹介などを行っていた日造協賛助会員による会員の業務に役立つ商材などの説明が行われた。

また、午後5時半からは1階のアクトスタジオに会場を移し、交流会を開催。主催者を代表して、鈴木義人関東・甲信総支部長があいさつ。次いで、中島祥之近畿総支部長が乾杯を発声、交流の場となり、岩井雅彦神奈川支部長が閉会のことばを述べ閉会した。



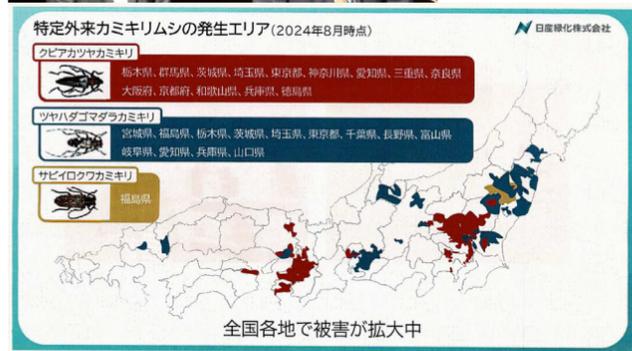
鈴木総支部長 中島総支部長 岩井支部長

## 都市樹木を脅かす外来カミキリムシ -被害の状況と防除方法- 【関東・甲信総支部】 日産緑化(株) 松宮 陽平・吉永 江里子



特定外来生物に指定されているカミキリムシは3種類で、樹木内部で生息する幼虫の食害が物理的ダメージを与えて枯死につながる。

クビアカツヤカミキリはサクラ、モモ、ウメなどのバラ科樹木、ツヤハダゴマダ



ラカミキリはトチノキ、カツラ等の広葉樹、サビイロクワカミキリはエンジュ、イヌエンジュに被害を及ぼす。

繁殖力の強さに加え認知度や危機感の低さも被害拡大の一因となっており、マツ枯れやナラ枯れに匹敵する社

会問題になりつつある。被害の拡大を防ぐためには●生体理解●被害の早期発見・早期防除●適切な防除方法の選択が不可欠だ。

主な防除方法としては、幼虫防除における化学的方法として樹幹注入・樹幹散布・フラス孔注入がある。物理的方法としては、伐採や幼虫の掘り取りがある。成虫防除としては、化学的方法として散布、物理的方法としては捕殺やネット巻きがある。適した方法を正しく施工することが大切となる。

こうした中、大阪府内の公園でのクビアカツヤカミキリ防除では樹幹注入剤「リバイブ」を使用し、2年ごとの施工



サイクルで6シーズン目を迎え、健全な状態を維持している。

樹幹注入は、樹木全体に薬剤の成分を行き渡らせることで幼虫を駆除する。また施工が容易であり飛散のリスクもないので防除において有効な方法のひとつである。初期段階で防除し、大切な樹木が守られることを願う。

## 新石川県立図書館周辺植栽工事

【北陸総支部】 飛鳥緑地建設(株) 河崎 宏武

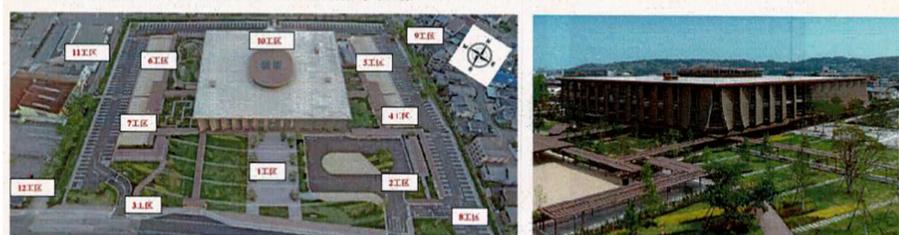


新石川県立図書館は、旧金沢大学工学部跡地に建設され、230万冊を収容でき、円形劇場や子供エリア、カフェテリアなど多様な施設を

備え令和4年4月16日に開館した。図書館の総工費は約150億円。造園工事は約2億5000万円。高木約200本、約50種類、低木約1万2,800本、50種類、地被類8,425種類、芝生4,500㎡、生垣約360mという大規模な植栽工事で、石川県内の多くの造園業者が携わった。この中で、巨木の移植工事があり、当社はこの移植を令和2年1月に請け負って11月に完了した。

移植木のソメイヨシノは、高さ6m幹周3.7m、葉張5mだったが、老木であること、擁壁に囲まれ鉢、根元の幹に強度がない、架空線の障害、自重があり過ぎ直接鉢にスリングを掛けると鉢がつぶれて根鉢を傷める、鉢と幹の2点で吊った場合に玉掛けが安定しないなどの懸念、課題が複数あった。

新石川県立図書館の総工費は建築・外構を含め約150億円であった。造園工事は約2億5000万円発生は石川県管内。1工区~12工区(6工区・7工区は組合併方式)で発生されました。庭園内に設ける高木土台・植栽・躯体も造園工事を含められて5年間の石川県内における造園工事としては最大規模のものとなりました。下植も数多くの石川県内の造園業者が携わることになった大規模工事でした。



高木	約200本 (約50種)
低木	約12,800本 (約50種)
地被類	約8,400株 (約25種)
芝生	約4,500㎡
生垣	約360m

そこで、樹木と根鉢を傷めずに安定した状態で吊り上げるため、H鋼2本を根鉢の下に潜り込ませ、お神輿のように、H鋼の4点に玉掛けを行い50tのラフタークレーン車で吊り上げることとし、ソメイヨシノの重量は14tだった。

この結果、傾くことなく吊り上げられ、運搬車には積み込まず、そのまま安定して運搬、植栽することができた。

移植から2年程たち樹木の生育状態は良好で、樹勢があり、順調である。



## 大分城址公園大手門前クロマツ移植 経緯と顛末

【九州総支部】 (株)栗木精華園 栗木 康一



大分城址公園大手門前のクロマツは、堀側に傾き、通行の障害になっているため、歩道整備に伴い伐採の提言がなされていた。

しかし、県民の反対意見も多く寄せられ、造園・緑化関係者も反対。移植が可能であれば、伐採を見直すとの県の見解を得ることができ、移植の提案を行い、公園外苑に移植することとなった。

クロマツは推定樹齢100年、樹高12m、幹周2.2m、葉張り10m。海と川に近い砂地で根鉢の形成は難しく、江戸時代の石垣の保全と交通量の多い国道で

運搬経路に複数の障害物が存在するなどの条件下での移植となり、まず根系調査を地中レーダー探査などで行った。

移植工事は、平成29年度から6年を掛けて行い、1年目は1回目の剪定、仮支柱工、東西方向の根回し工、環状剥皮、埋戻しを実施。2年目は南方向、北方向の根回し工、環状剥皮、施肥を実施。南側は埋設管があり根がほとんどなく、北側は石垣の石を抱き込んでいる状態で、東西南北の状況が異なり、円形の根鉢をつくることは出来なかった。3年目は2回目の剪定、施肥。4年目は害虫防除(マツガード)、施肥を行った。

そして、5年目に文化財となっている石垣を解体・移設し、本支柱を設置、掘



⑤着工前のマツ ⑥吊上げ・積込み

取り、根巻きを行い、21時から翌朝6時までの特別な許可で国道を封鎖、障害となる信号機を撤去し、400tのラフタークレーン車で玉掛けにより積込み200m離れた移植先に運搬。ラフターは組立てに1時間半、解体に同時間かかり、実作業の時間が限られるため、同時に準備していた300tのラフタークレーン車で吊り下ろしを行い、植穴に植付け、灌水、埋戻し、石垣の復旧を行った。

6年目は経過観察、灌水・消毒など



の管理作業となり、移植から3回目の夏を過ぎた現在、十分な樹勢を保っており、我々の責任を果たしたと思っている。



現在の様子(2024.9)

## リノベーションで蘇る『東の杜』

【東北総支部】 (株)武田園芸 武田 和博



山形県東根市に横尾酒造から寄贈された酒蔵をリノベーションし、資料館「東の杜」という新しい文化交流施設とするプロジェクトで、2019年9月から2020年3月までの厳しい冬季作業であった。

また、工事費は抑えながらも市の顔として恥ずかしくない日本庭園で、年間の維持管理費(特に雪囲い)を抑えたいという市の要望と既存の材料(樹木、石、燈籠)の使用、基本設計はあまり崩さず、建築に合う雰囲気のある庭という建築設計事務所の要望に応えながら施工となった。

庭園は、主に芝生庭園と露地庭、前庭で、毛越寺庭園の遺水と州浜を参考に、コンクリート躯体を使用せず、防水シートを活用した設計でコスト削減とデザイン性の向上を図るとともに、流れの底にモルタルで玉石を打ち込むことで、自然の流れを再現し、汚れ(藻)もブラシで簡単に掃除でき、夏場に水が枯れた場合、枯山水としても楽しめるようにした。

現場の土木業者には築山という概念が



芝生庭園 Before → After

なく、滝石組みと並行して自ら盛土したが、敷地に余裕がなく一度にすべての造形ができず、一輪車を用いて運搬。氷点下を超える厳しい寒さで、降雪はもちろん解けた雪でぬかるんだ土に足が取られる中、防寒具に身を包み、夜間は仮囲いの中で練炭を焚いての作業だった。

課題であった雪囲いは、雑木類を多く使い、丸太支柱に縄で縛るだけ、低木は雪柵とし、維持管理費の削減とともに、雪囲いがひとつの景となるようにした。

そのほか現場では、狭い場所と寒さの影響を踏まえたリスクアセスメント・



露地庭 Before → After

KY活動を行うとともに、職人1名と若手職人2名の3名で取り組み、作風の統一と職人の育成を図った。

この結果、市と建築事務所の要望を満たし、納まりとコストカットをクロスオーバー(融合)させることができた。

東の杜は、さまざまなイベント会場にも利用され、すでに入場者数14万人を超えたが、今後も永く観光名所となり、市民に親しまれ、大切にされるよう巡回点検に努め、常に健全で見ごたえのある庭を維持していきたい。



前庭 Before → After

## 造園技術の継承と展望

(公社)日本造園学会 造園CPD登録実施記録審査委員会 副委員長



東京農業大学地域環境科学部造園科学科 教授 水庭 千鶴子  
今回の会場である川崎市が市制100年、東京農業大学造園科学科も100周年を迎えた。関東大震災の復興には造園が必要だということ

で、造園科学科の前身である東京高等造園学校を上原敬二先生が創設された。

私たち造園に関わる者は、造園を認知しているが、一般の方々の認知度は低く、もっと知ってもらふ必要があるため「時代をつくる 造園家のしごと」を100周年記念としてまとめ発刊した。また、日本の造園教育は先進的であり国際的に

も役立つことから、「造園伝統技術の継承と開発のための国際的教育活動」の推進を図っており、こうした点が、本日の主題にもつながっている。

造園は、どんどん進化していて、私が学んでいた頃とも変わってきている。私たちは継承とともに、これからの造園をどうするのか、これからの造園はどうなるのかをしっかりと考えていく必要がある、これについて“シン・ランドスケープ”と名前を付けてみた。

例えば、海外の人達にも知られている金閣寺に見られる庭園文化は現在にもつながっているし、近代の足立美術館の庭は造園技術を継承し、日本を代

表する庭園の一つになっている。

造園技術は、自然を取り入れる技術と自然をどう扱うかともいえるが、一方で造園に近いものとして公園があり、明治6年に上野恩賜公園が日本初の都市公園となり、初の西洋風公園として明治36年に日比谷公園が開園した。

本日の発表に移植の話もあったが日比谷公園にも伐採予定だったイチヨウがあり、本多静六博士がその首を掛けて移植したイチヨウが、「首掛けイチヨウ」として残っており、造園に関わる者として共通の想いがあったと感じた。

現在、神宮外苑前のイチヨウ並木が話題になっているが、こういったものをどう残していくか、どう継承していくかといった問題の一つであり、注視しながら、どう保全・更新していくかを考えなければならない。

これからの公共空間・緑地空間をどうつくっていくかを考えると、管理の質をどう保証するか、経費削減・人手不足、造園業界のDX、設計段階からの検討、造園におけるIT化などが考えられ、ローメンテナンスの公園づくりとして、機械の導入、管理の簡略化、単純なルーティーンが必要だが、それだけでは対応できない。

これからの公園緑地は、樹木だけではなく花や土、動物など、多様なものを取り扱い、いつでもだれでも気軽に使える空間が求められ、健康と福祉に役立つものであったり、街づくりの一環にもなっている。

そこで最後に展望として●協働でのまちづくり●環境に配慮した素材と開発●伝統技術の継承を海外へ、持続可能なまちづくり→SDGsを提示したい。

## 講評

(公社)日本造園学会副会長 東京大学大学院農学生命科学研究科 教授 大黒 俊哉



本日の発表は害虫防除から大木の移植、日本庭園の作庭まで、いずれも大変興味深いお話で、多様な話題が提供されたが、これは造園という職能が、技術、学術、そして芸術という多様なジャンルを統合した高度な職の集合であるからだ実感した。

外来カミキリムシ防除については、特に学術的な知見が重要で、大学のキャンパスでも被害が始めている。害虫防除をはじめとするペストコントロールは、緑地環境を守るために重要で、科学的、学術的な知見の蓄積が不可欠。紹介

された各種防除技術は科学的な情報に立脚し、大変勉強になるとともに、早期発見と根気のいる作業が不可欠だと実感した。

図書館周辺の植栽工事は、技術の粋を集めた大変興味深い事例と感じた。この分野はまったくの素人で技術の詳細についてコメントする立場にはないが、樹木は生き物であり、失敗が許されない。そこで最適解を出し、実行されることは大変困難なことだ。クロマツの移植の発表も同じで、こちらは伐採の提言をひっくり返しての移植であり、実に格好いい仕事だと感じた。石垣との関係もあり数年がかりでの移植。今後同様な現場に遭遇することは稀有だが、将来の新たな

問題を解決するヒントにつながる。これが技術フォーラムを開催し、技術を蓄積し、共有する意義だと理解した。

東の杜の発表は、施主の方々のいろいろな要望に最大限応えたプロジェクトで、限られた予算と材料の中で美しい空間をつくるために、繊細な工夫が盛り込まれ、芸術的な要素が存分に発揮された。

毛越寺庭園の遺水という平安時代の古い景を取り込んだことは、水庭先生のお話しにもあったが、自然を取り入れるという造園の技術で、そういう技と心が生かされた素晴らしい事例だった。

私は大学のキャンパスの植栽管理の取りまとめを担当している。三四郎池をはじめ、歴史と文化のある空間として学内外から親しまれているが、老木の管理、更新が中長期的な課題になっている。大木や老木の維持と更新については、技術

的に可能か、生態的に見て適切か等、いろいろな視点からの議論が必要になるが、ここで大事なことは技術者が議論にしっかりと参画することだと考えている。

また、これは病害虫や移植など植物の維持管理にも関係することだが、夏の気温が高くなると、これまでの技術が通用しないことも増え、新たな技術が必要になってくるだろうと感じた。

管理の重要性、ランドスケープをマネジメントするということが社会に十分理解されていないことが大きな課題であり、私自身もランドスケープの専門家としてこの辺りをしっかりと伝えていかなければならないと、自戒を込めて感じた。造園技術フォーラムというこの非常に重要な情報提供、情報共有の場が、これからも続き、発展していくことを心から願っている。

ふるさと自慢

鹿児島県 鹿兒島市北部に位置する私の故郷に建立されている有名な花尾神社にまつわる歴史や催しをご紹介します。

鎌倉時代からの歴史と伝統を繋ぐ

この神社は、源頼朝と側室であった丹後局との間に生まれた島津家の初代忠久公が建立したと伝えられていますが、忠久公が薩摩・大隅・日向の守護職に任ぜられ下向したおり、1218年頃花尾山の山深い森林や杉などの大木で囲まれた南麓に御堂を建てて頼朝尊像を安置したと伝えられています。

丹後局は頼朝の正室である北条政子の嫌がらせを嫌い、摂津国の住吉大社に逃れ、忠久を出産したのちに花尾の地に居を構え、1227年に亡くなり丹後局が深く



花尾神社本堂



参道杉木立

帰依した当社別当寺平等王院や永金阿闍梨なども祀られ、参道途中



丹後局墓



丹後局御腰掛石



石塔群、丹後局・僧永金及び鎌倉随従の武臣の墓には丹後局・僧永金及び鎌倉から随従武臣の墓が現存しています。また、丹後局が忠久を出産した後、安産・子授けの御利益もよく知り伝えられています。

島津氏の所縁の神社として、歴代藩主が崇拝保護に努め、現社殿の格子天井には400枚ほどの草花が極彩色で描かれ、彫刻などの巧みな所を東照宮に例え「さつま日光」と呼ばれています。

島津忠久公が生まれ800年余り経とうとしていますが、島津の後継たちは丹後局を慕い、行列を連ねていたと言われ、現在も鹿児島鶴丸城跡地から市街問わず市民が蟻の花尾詣で行列に多数参加し、社殿広場では秋の大祭として、この地の伝統的奉納踊りなどを交え、各地から集まった人々により、毎年、花尾神社の歴史と伝統が築かれています。



彫刻画像



極彩色 400枚



秋の大祭 蟻の花尾詣



蟻の花尾詣 丹後局



秋の大祭 花尾の太鼓踊り

鹿児島県支部 横瀬 博文 (株横瀬造園土木)



この度『緑滴』コーナーの依頼を受け大変恐縮しております。テーマは仕事以外で自由にのことでしたので、僭越ながら、紙面の休憩コーナー的に捉えていただきたく、私の気分転換の方法について述べたいと思います。

それは、空を見上げることです。この方法は、用意が必要なものがなく、いつでもできるのがいい所です。忙しい時、自己嫌悪に陥った時は目の前のことばかり考えがちになってしまうのですが、空を思い出して見上げ大きく息を吸い込むと、大きな空に比べたら自分の悩みごとは小さく思われ、ふっと肩の力が抜けるように感じます。

また、最近では私が住んでいる島根でエドヒガンザクラ、スダジイ、カツラなど巨木巡りを楽しんでいます。こんなにも大きく育つまでは、いつの頃からか何百年もその場所に静かに佇み、どんなものを見つめてきたのだろうと想像します。

巨木の下から空を見上げると、大きく張った枝葉の隙間から見える青空や白い雲、こぼれてくる陽の光で清々しく穏やかな気持ちになります。 今後は、県外のま



エドヒガンザクラ スダジイ



だ見ぬ巨木との出会いにも足を運びたいと思います。

昨年5月には東京で母校の造園科学科百周年記念式典があり、懐かしい恩師や多くの旧友に会える機会がありました。

体力的に実年齢に抗うことはできませんが、あっという間に気持ち若返りました。

中々会える機会はなくとも、同じ空の下で今日もどこかでみんな元気にお過ごしだろうと、空を見上げて思いを馳せてみようと思います。



持田ミカル (有)みどり建設



事務局の動き

- 【2月】
4(火)・広報活動部会
・財政・運営部会
5(水)・国際委員会
6(木)・運営会議
7(金)・街路樹剪定士・緑地樹木剪定士認定委員会(試験部会)
9(日)・AIPH スプリングミーティング~ 13(木)
12(水)・街路樹剪定士・緑地樹木剪定士認定委員会
14(金)・事業委員会(全国)
15(土)・第51回全国造園デザインコンクール表彰式
18(火)・植栽基盤診断士認定委員会(試験部会)

- 19(水)・日本庭園士認定委員会(造園連)
20(木)・地域リーダーズ勉強会~ 21(金)
26(水)・登録造園基幹技能者講習(北海道)~ 27(木)
27(木)・総支部・支部交流会(九州)
28(金)・日本公園緑地協会国際委員会

委員会等の活動

- 広報活動部会
2/4 日造協ニュース2月号の内容確認、2025年6月までの記事構成、造園フェスティバルテーマについて審議
●財政・運営部会

【造園用フルハーネスの購入方法】

造園の作業に適した「造園用フルハーネス」を会員特別価格でご購入希望の方は URL (http://shop.kousinen.com/) よりお申込ください。



- 2/7 令和7年度事業計画及び収支予算案について審議
●造園ワークポジショニングマニュアルの編集会議
12/16 造園連と共に編集を行っているマニュアル等について、建災防と共に内容を確認、今後の進め方について打ち合わせ
1/27 造園ワークポジショニングマニュアル動画撮影
●造園技術フォーラム部会
1/18-19 来年開催地の大阪にて会場との打合せ、講演内容になるグリーングラン大阪を視察
●造園委員会(全国)
1/30 今年度の事業報告と来年度の事業計画について審議。委員会前にグリーンインフラ産業展の視察、委員会後に「優良緑地確保計画認定制度と評価基準」について、酒井国土交通省都市局都市環境課課長補佐が講演
1/29-30 グリーンインフラ産業展のグリーンインフラ官民連携プラットフォームブース出展に協力
●要望・提言活動部会
12/19 今後の要望提言の方針や市場単価の調査に対する対応について審議
●地域リーダーズ会議
12/23、1/9 2月徳島での勉強会と今後の地域リーダーズ活動について審議
●全国造園デザインコンクール等推進部会
1/26 審査会を神奈川県立相原高等学校で実施
●街路樹剪定士認定委員会(試験部会)
12/10 11月までの実施結果について採点
12/20 11月までの実施結果について合否判定
●植栽基盤診断士認定委員会
12/13 実地試験の合否判定と来年度以降の開催計画について審議
●登録造園基幹技能者講習
1/23-24 福岡 21名受講
1/30-31 東京 37名受講
●女性活躍推進部会
1/15 愛知県立稲沢緑風館高等学校出前講座/
1/27 岐阜県立国際園芸アカデミー出前講座 酒井部会長が冊子の「造園建設業の仕事入門」をアレンジしたパワポを使い、県内の名所や花のクイズを交えて造園について講義、その後ディスカッションを実施
●戦略立案部会・全国造園デザインコンクール等推進部会コメンター会議
12/26 2027 国際園芸博覧会に出展するプラン賞について審議
●2027 年国際園芸博覧会特別委員会
12/6 博覧会準備状況、屋内・屋外出展の調整状況等について情報共有

編集後記 新年造園人の集いには例年にも増して多くの方が参加され、会場は熱気に包まれていました。造園学会設立100周年、2027年国際園芸博覧会、今年期待の造園人の紹介など華やかな話題も多く、業界の勢いを感じました。